

【考え方の例】

問題の意味をよく理解して、最初にどの部分に注目すればよいのかを考えましょう。

まずは、『6 1 3 2』に注目します。

ゆみさんがこの数を予想したとき、○と△は1個もありませんでした。

つまり、あきら君が思い浮かべた数字に、6と1と3と2は入っていないことがわかります。

『~~6~~ ~~1~~ ~~3~~ ~~2~~』 → なし

『7 ~~3~~ ~~1~~ 4』 → △が1個

『~~2~~ ~~3~~ 5 8』 → △が2個

『5 7 9 ~~4~~』 → △が3個

『4 ~~6~~ 5 9』 → ○が1個と△が1個

次に、『~~2~~ ~~3~~ 5 8』→△△

『5 7 9 ~~4~~』→△△△ に注目すると、

思い浮かべた4つの数字のうちの3つは、5と7と9で、

もう一つは8、つまり、5と7と8と9の組み合わせであることがわかります。

次に、『4 6 5 9』→○△ に注目すると、

5か9のどちらかが正しい場所にあることがわかります。ここで、十の位の5は、『2 3 5 8』→△△ より、正しい場所ではありません。つまり、一の位が9だとわかります。

(答えの数は、□□□9)

また、『5 7 9 1』→△△△より、5は千の位でもありません。つまり、5は百の位だとわかります。

(答えの数は、□5□9)

さらに、『7 3 1 4』→△ より、7は千の位ではありません。つまり、7は十の位だとわかります。

(答えの数は、□579)

最後に、千の位に8が入り、答えは8579だとわかりました。